

第6次粕屋町総合計画基本計画(案)に 対するパブリックコメントの結果について

令和7年9月27日(土)から令和7年10月27日(月)までの期間で、第6次粕屋町総合計画基本計画(案)について、パブリックコメントを実施し、ご意見を募集しておりましたので、その結果及び意見に対する回答をご報告いたします。

貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

1 提出方法

方法	人数・団体数	意見の件数
持参・郵送・FAX	5名	11件
電子申請	4名	10件
計	9名	21件

2 意見の概要とそれに対する町の考え方

第6次粕屋町総合計画基本計画(案)に対する意見と町の考え方は、以下のとおりです。

No.	該当ページ	意見概要	町の考え方
1	全体の構成について	第6次総合計画を読ませていただいて、これまでと違い、文字だけではなくすっきりとして読みやすいと感じました。 ただ、私の中では町の計画書は縦長というイメージだったので今回の横長の計画書には少し違和感をおぼえます。 横長の計画書にした意図はあるのでしょうか。	第6次総合計画では、町民の皆様に分かりやすく親しみやすい計画書となるよう、図や写真を多く用いたシンプルで見やすい構成としています。 冊子の形状は、図表などを見開きで見やすく配置できるよう横長とし、オンライン閲覧の際にもパソコンやタブレットの画面で確認しやすい形式としています。これにより、従来の計画書よりも全体を見渡しやすく、デジタル環境にも対応したものとしています。
2	町民意識調査結果のグラフタイトル	ところどころにある町民意識調査結果のグラフタイトルに統一感がない。 P28では～と思いますか P48では～と考える町民の割合 P66では～の準備状況 となっておりバラバラである。 出典の書き方もP48とP66では違うため、全体で統一したほうがいいのでは。 (そもそもグラフタイトルにいきなり「～と思いますか」のように設問のみ書かれているのはおかしいのでは)	ご指摘のとおり、同じ調査の結果にも関わらず、統一性のないタイトルとなっております。また、設問のみがタイトルとなっているものもわかりづらいため、タイトルに調査名を入れてわかりやすくしたうえで、標記を統一することといたします。
3	注釈について	計画内に分かりづらい言葉があったが、注釈に気づけなかった。注釈だけでなく言葉の方にも米印を記載する必要があるのでは。 せっかく分かりやすくするための注釈があるのに、読み手が気付かないのであれば意味がないと思う。	ご指摘のとおり、本文を読むだけでは、どの言葉に注釈がついているのかわかりづらいため、注釈をつけている言葉には、本文内に印を追加します。

No.	該当ページ	意見概要	町の考え方
4	11 ページ	<p>「粕屋町の地理的特性」の記載が、まるで福岡市とのアクセスが何分であるかが粕屋町の全てかのように内容不足と感じます。これまでの基本計画で説明されてきたように広範囲の地理について記載してほしいです。</p> <p>粕屋町の魅力は福岡市への交通アクセスの良さだけではなく、北に久山町、東に篠栗町・須恵町、南に志免町に隣接し、各町の豊かな自然を享受しやすいことも重要な要素だと思います。特に子育て世代にアピールできる魅力の1つでもあるため、転入世帯を呼び込むためにも文章で説明を入れておくほうが良いと思います。</p>	<p>粕屋町の1番の強みとして福岡市へのアクセスを強調しておりましたが、ご指摘のとおり、自然と調和した町であることも強みであるため、P11 粕屋町の地理的特性に文章と図を追加いたします。</p>
5	17 ページ	<p>人口の将来展望は、『目標人口』ではなく『推計人口』のほうを基準としてほしいです。</p> <p>2030年の目標人口を5万人とすることについて、国勢調査の時期や市制の要件に合わせるため無理な設定をしているようにしか思えません。粕屋町の人口は2024年に減少傾向に転じていますし、現在工事に着手している大型宅地開発、空き家活用事業等は特になく、教育環境は町立幼稚園閉園等でむしろ減らす施策を行っている粕屋町において、急に毎年何百人も人口が増加に転じるとは思えないのが住民の実感です。『計画的な開発や子育て支援、教育環境の充実』を実施してやっと、推計人口である4万人台が維持されると思います。</p>	<p>推計人口は、現在と同様の取組を今後も継続した場合の推計であり、目標人口は、第6次総合計画に掲げる施策を推進することで見込まれる人口増を反映したものとなっております。</p> <p>今後予定されている土地区画整理事業をはじめ、各分野の施策を着実に推進することで、目標人口の達成に向けて取り組んでまいります。</p>
6	18 ページ	<p>市制施行を目指す取組は保留とし、町制充実に予算や人員を使ってほしいです。なお、市制施行についての町民意識調査結果は時点が古すぎると思います。</p> <p>2022(令和4)年度の町民意識調査の際は、粕屋町の人口は増加の一方のイメージがあったことから市制施行を「よいと思う」と回答した人が多かったと思われます。ところがその後、粕屋町の人口は減少に転じ、推計人口は市制の要件である5万人に到達しない見込みとなり、調査時点から状況は変化しました。粕屋町はいつの間にか市制を目指すことになっていますが、示される3年前のアンケート結果だけでは根拠が乏しいです。住民としては、見込みの薄い市制移行対策よりは町制を充実させるほうに労力を使っていたきたいです。</p>	<p>市制施行を目指すこととしておりますが、市になること自体が目的ではありません。本来の目的は、町民の幸福度や生活の質の向上、そして地域の持続的な発展です。市制施行は、その実現に向けた「手段」や「きっかけ」として位置づけており、市制施行を目指すことと町政を充実させることは、同じ方向を向いた取組であると考えております。</p> <p>市制施行についてのアンケートに関しましては、人口の動向を踏まえ、必要に応じて実施し、町民の皆様のご意見を把握してまいります。</p>

No.	該当ページ	意見概要	町の考え方
7	18 ページ	<p>市制施行について、町から市に移行することにより、都市的イメージの向上や認知度、知名度アップとあるが、抽象的すぎてなぜ市制を目指すのかが曖昧に感じる。</p> <p>本当に市制を目指すのであればより具体的な目標や意図を記載すべきだと思う。</p> <p>認知度や知名度アップが目的であれば、人口の多い町として活動を続けた方が数多い市に埋もれず差別化ができると思う。</p> <p>むしろ日本一人口が多く勢いのある町を目指した方が良いと思う。</p> <p>市制の目的が財政強化による住民の生活の質の向上(役場職員、議員給料アップ含む)であれば、まだ納得できると思う。</p> <p>直近の人口推計では5万人に届かずに届いたとしてもすぐに5万人を切る推計値を見る限り、記載してある都市的イメージアップには到底繋がらないと思うため、市制を目指す明確な理由がわからない。</p>	<p>市制移行について、町民の皆様にアンケート調査を実施したところ、「市になることがよいと思う」と回答された方が84.5%を占めました。</p> <p>この結果を踏まえ、令和5年度に市制対策室を設置し、市制施行に向けた取組を進めております。</p> <p>ただし、市になること自体が目的ではありません。本来の目的は、町民の幸福度や生活の質の向上、そして地域の持続的な発展です。市制施行は、その実現に向けた「手段」や「きっかけ」として位置づけています。</p> <p>一方で「町のままで差別化を図るべき」とのご意見も大変重要な視点です。いただいたご意見を、今後の参考にさせていただきます。</p>
8	23 ページ	<p>分野別計画の見方では、平均未満→平均値(偏差値 50) 平均以上→福岡都市圏内1位という目標値が設定されています。粕屋町が、その分野で人口規模や町の構造などが異なる市町村で構成される福岡都市圏内で1位を目指す、その理由をお聞かせください(町の過去の指針や公式な記述があるようでしたら、あわせてお示してください)</p> <p>またこのページには、目標値に関する説明がありませんので、少なくとも説明は必要だと思いますが、いかがでしょうか。</p>	<p>福岡都市圏は、交通利便性・生活利便性など、共通して優れた特性を持っていることから、福岡都市圏1位を目標として設定しました。</p> <p>達成が容易でない目標値もございますが、本計画は目標値の達成そのものよりも、目標に向けた取組の過程を重視するものとしております。</p> <p>目標値の詳細につきましては、巻末の資料集でまとめる予定としております。</p>
9	23 ページ	<p>粕屋町が総合計画策定で採用している Well-Being 主観指標の目標値の設定についてです(第7回総合計画審議会の資料 1.指標の設定の6ページで各分野の現状値、目標値が整理されています)。</p> <p>デジタル庁が 2023 年6月発行した「地域幸福度 (Well-Being) 指標利活用ガイドブック」(16 ページ)によると、「多くの人に馴染み深い「偏差値」という言葉が、「競争」や「ランキング」を想起させがちですが、自治体同士の過度な比較は避け、自身のまちの特徴を読み取ることを主目的としてください」とあります。</p> <p>目標値に福岡都市圏1位を入れている点(資料1では、具体的な市町村名も掲載されています)は、この過度な比較にはあたりませんか。ご見解をお聞かせください。</p>	<p>ご指摘のとおり、Well-Being 指標は、それぞれのまちの特徴を読み取るためのものであることを十分に理解しております。</p> <p>第6次総合計画では、全国の自治体と比較可能な Well-Being 指標を用いることで、計画の進捗を客観的に把握し、施策の効果を検証することを目的としております。また、特徴が類似する自治体の事例を参考に、より効果的な事業の企画・立案を行うことができる点も、大きな利点であると考えております。</p> <p>なお、他自治体の Well-Being 指標については、デジタル庁が公開しているオープンデータを活用しております。</p>

No.	該当ページ	意見概要	町の考え方
10	27 ページ ～ 32 ページ 子育て分野	<p>病児保育について記載がないが、利用までの不便さを感じるため、病児保育も課題定義と解決策を明記してほしいです。</p> <p>急な子供の病気でも病児保育の利便性を向上してほしい。制度整備が必要だが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン診療・電話トリアージ連携で受診に対応 ・空き状況のリアルタイム見える化(Web/アプリ) ・オンライン病児保育予約 <p>などに対応し、急な対応でも病児保育を選択肢として活用できるようにしてほしいです。</p> <p>病児保育を利用したいときの、現状は「当日発熱→病院で受診→予約が可能」の順で、実質“翌日利用”となり、深夜や早朝の発熱などの対応は難しく共働き・単身育児ほど詰みやすい。当日発熱があった際は、早退などや半日休暇を利用して保育所にお迎えにいつているため、それ以降のスケジュールが立てやすい。(翌日は有給なのか、病児保育を利用など)。</p> <p>課題に感じるのは深夜や当日の朝に発熱があったとき。仮にお休みにする場合も始業前のため、職場にはオンラインでの連絡(メールやLINE など)となり、仕事調整が困難となるケースがある。深夜でも当日早朝でも病児保育を利用できる手段として整備してほしい。オンラインでの空きや予約などできることが望ましい。受診が必要な場合も、オンライン診療などを取り入れて、急な発熱でも休まないといけいいのか病児保育で問題ないのか、家庭内でタイムリーな判断ができると、就労継続と安全確保の両立が図れると思う。</p>	<p>病児保育につきましては、受け入れ施設や定員とともに、利便性の向上も課題であると認識しております。</p> <p>オンライン診療での受け入れにつきましては、病児保育の特性上様々な感染症の児童を受け入れしており、感染症には対面診療での検査・診断が必要なものが多いため、感染症の蔓延防止対策から、難しいと考えております。</p> <p>空き状況の見える化やオンライン予約につきましては、協力医療機関と検討していますが、新たなタスクが発生することもありますので、慎重に協議をすすめていきたいと考えております。</p> <p>これらの内容は、今後策定する実施計画の中で検討させていただきます。</p>
11	33 ページ ～ 36 ページ 健康・保険 分野	<p>取り組み1～4の中には生活習慣病の予防という一文はありましたが、食生活の改善への取り組みについて記載がありませんでした。</p> <p>健康寿命の延伸という目的のためには、生活習慣病の予防のうち、バランスの取れた食事、日々の食生活の改善や子どものころからの正しい食生活の継続などが不可欠だと思います。</p> <p>粕屋町健康増進計画と一体化された粕屋町食育推進計画でもバランスの良い食事について記載されていますので、総合計画にも記載して啓発してはどうでしょうか。</p>	<p>ご指摘のとおり、生活習慣病の予防には、食生活の改善をはじめとする取組が不可欠です。</p> <p>具体的な取組については、粕屋町健康増進計画において示しており、総合計画では、個別の取組内容を示すのではなく、健康づくりに関する全体的な方向性を示すものとして位置づけております。</p> <p>今後も、食生活の改善や運動習慣の定着、歯科保健、休養の充実など、さまざまな生活習慣病予防の取組を、健康増進計画に基づき推進してまいります。</p>

No.	該当ページ	意見概要	町の考え方
12	43 ページ ～ 46 ページ 教育分野	<p>44 ページの現状と課題で「青少年育成については、学校・家庭・地域の連携が十分だ」と回答した町民は3割ということですので、連携が課題だという点を強調して、以下の見出しに変更する点を提案します。</p> <p>(取組1の見出し) 現状: 地域で育てる体制の充実 提案: 地域で育てる連携体制の整備</p> <p>(取組2の見出し) 現状: 地域の見守り体制の強化 提案: 地域の見守り連携体制の構築</p>	<p>ご指摘のとおり、学校・家庭・地域の連携は重要な課題であり、「整備」や「構築」といった体制づくりの段階を経て、より効果的な取組へと発展させていくことが大切だと認識しております。</p> <p>本計画では、連携体制の整備・構築を含め、地域で育てる体制や見守り体制の質と量の両面での向上を目指すことから、「充実」「強化」という表現を用いております。</p> <p>したがって、見出しの変更は行わず、引き続き連携の強化を含めた体制づくりを進めてまいります。</p>
13	47 ページ ～ 50 ページ 文化・スポーツ分野	<p>『町の歴史に触れる機会を創出』するため、図書館及び電子図書館の地域資料を充実させると良いと思います。</p> <p>私は図書館の企画展示で粕屋町の歴史に触れることができました。また、粕屋町の歴史を調べる際も図書館を活用しています。今後はさらに、電子図書館の地域資料を充実していただけたら、町の歴史や文化への理解を深めるとともに、広く粕屋町の情報発信をできると思います。</p>	<p>P50 文化・スポーツ分野のすべきこと3において、図書館・電子図書館の利用促進について記載しております。</p> <p>今後は、ご指摘の地域資料の電子化も含め電子図書の充実を図ってまいります。</p>
14	51 ページ ～ 54 ページ 都市づくり分野	<p>計画(案)には「県道 607 号」の表記は地図凡例で確認できる一方、分野別計画の本文では“607 号を名指した具体施策”は見当たりません。</p> <p>地図上では路線名が示されている一方、本文では607 号を名指した対策が読み取りづらいため、町の優先課題として県道 607 号(原町駅・長者原駅と国道 201 号接続区間も含む)を「重点調整路線」に明記してほしいです。</p> <p>車線増加(須恵側のJR高架下～長者原交差点、607 号と 201 号接続する区間の道路)が急務と思います。</p> <p>県道 607 号の渋滞により、607 号線接続する各種車道の渋滞が起こり、裏道を走る車が増え、生活道路通学安全の課題は日常的で深刻と感じています。また、上記道路は通勤時間問わず渋滞しているため、緩和が必要。地理特性に記載があるが、様々な方面に物理的近い反面、渋滞のせいで結局遠く感じているため、移住者にとってもマイナスイメージとなっています。</p>	<p>生活道路の渋滞緩和は重要な課題であると認識しております。</p> <p>しかし、県道 607 号を含む広域道路網の整備には、多くの期間と費用が必要となり、なにより沿線の方々のご協力が不可欠です。</p> <p>生活道路における通過交通の減少と交通渋滞の緩和を目指し、まずは広域道路網の整備として、福岡東環状線の早期完成に向け、関係機関と連携し進めていきます。</p>

No.	該当ページ	意見概要	町の考え方
15	51 ページ ～ 54 ページ 都市づくり 分野	<p>近年の地価上昇で 20～30 代ファミリーの流入が伸び悩み懸念があるため、駅徒歩圏の家族向け分譲・賃貸の計画的確保(3LDK 中心・保育/公園近接の子育て導線設計)が必要と思います。合わせて道路整備と並行して、マンション世帯向けのカーシェアの配備が必要。</p> <p>通勤の面では、天神方面のアクセスは乗換が必須のため、地下鉄延伸を積極的に進めてほしいです。</p> <p>土地利用の推進を掲げます。一方、公示地価は 24→25 年で 7%程度の上昇が報じられ、若年ファミリーの負担増が懸念されます。住宅供給と子育て施策を“セット”で駅近に集中させるほど、車依存の低減・渋滞緩和・定住促進に寄与。地下鉄延伸はネット上で案が取り上げられる段階で採算・実現性は未確定なため、積極的に誘致活動してほしいです。</p>	<p>現在、JR 駅などの交通拠点を中心に車に依存しない、誰もが歩いて暮らせる環境にやさしいまちづくりを進めています。</p> <p>AI オンデマンドバスやシェアサイクルの導入・活用を進め、移動の利便性向上を図るとともに、鉄道や路線バスの乗り継ぎ向上にも取り組んでいます。</p> <p>地下鉄延伸については、糟屋地区と筑豊地区の関係市町で構成する「福岡市地下鉄福岡空港駅・JR 九州長者原駅接続促進期成会」において、福岡県に対して、接続実現に向けた調査の要望を行い、調査が行われましたが、費用対効果が大きな課題となっています。</p> <p>今後も町のインフラ資産を活かした住みやすいまちづくりを目指していきます。</p>
16	55 ページ ～ 60 ページ 環境分野	<p>粕屋町で犬を飼育するに際し飼い主、周りの住民、犬にとり良い環境にし、住民、動物、移住希望者が幸せになることにより、住民増&活力がある粕屋町を実現する</p> <p>1.現状問題点</p> <p>粕屋町では犬が朝から晩まで吠えており、飼い主は周りに苦情を言われても飼い方を知らず改善できずどうして良いかわからず常にストレスを感じる。この状況をみて粕屋町を気に入っている移住希望者が他の市町村(福岡市)に移住希望先を変更した例あり。また、犬のフンが道にあり、踏んで汚れるなどの問題あり(高橋から扇橋までの川沿い)。</p> <p>2.推測原因</p> <p>■飼い主が犬が何故泣き叫んでいるのか理解できない、</p> <p>■躰の仕方を知らない、</p> <p>よりいつまでも改善できない。犬は犬で寂しいなりなんなりと原因があつて泣き叫んでいるが飼い主に伝わらないので一生泣き続ける。周りの住民は朝から晩(時には深夜まで)犬の泣き叫ぶ声を聞かされ引越しをしたくなる。</p> <p>3.対策案</p> <p>犬の躰講習を受け飼い主のレベルを上げる。例えば 10 年後は欧州の国の様に犬を飼うなら研修必須としそれまでは希望者が受けられるなど段階を踏む計画など。</p>	<p>現在、毎年、狂犬病予防集団注射の実施の際や広報等にて、飼い主のマナー向上及びふん害等防止に関する意識高揚を図るための啓発を行っています。</p> <p>また、ふん害が著しいなどのご相談があった場合には、現地確認と啓発看板の設置をしています。</p> <p>飼い犬と近隣の方々とがお互いに気持ちよく過ごせるよう、今後も適正飼育の啓発を継続してまいりたいと思います。</p>

No.	該当ページ	意見概要	町の考え方
17	61 ページ ～ 64 ページ 産業分野	<p>「ふれあい農園」の拡充もお願いします。</p> <p>ふれあい農園は抽選が高倍率で、毎年落選する人も出る人気事業です。粕屋町が目指す『都市と自然が調和した魅力的な土地利用』の一環として、ふれあい農園の拡充を希望します。</p>	<p>現在3ヵ所のふれあい農園があり、令和7年 10 月に開催した抽選会におきましては、22ヵ所の空き区画に対し応募者が38名という状況であり、本町といたしましても需要を把握しております。</p> <p>現在、新規ふれあい農園開設のために、候補地を検討中でございます。</p>
18	61 ページ ～ 64 ページ 産業分野	<p>創業支援について、課題として、創業・起業を検討している人への支援を充実する必要があるとしている。</p> <p>取り組みとしては、商工会が行っている起業塾等を通じた支援が挙げられている。</p> <p>商工会会員や宅建業者との意見交換では、創業しようにも町内には事業所等の空きスペースがなく、町外に転出しているとのことであった。空き家・空き店舗などを活用し、コワーキング、サテライトオフィスを設置するなどの支援策(地方創生事業の活用)を検討する必要があると思う。</p>	<p>町といたしましては、創業塾の参加者数や起業者数、起業場所の動向を調べておりますが、今のところご意見のような要望を把握できておりません。</p> <p>現在、創業・起業を検討している人への支援を充実させることの一つとして、商工会と連携して、創業塾を実施しているところです。</p> <p>今回のご意見は今後の検討課題とさせていただきます。</p>
19	65 ページ ～ 68 ページ 安全・安心分野	<p>防犯については、課題として、町には、6つの駅と大型商業施設があることから、自転車窃盗や万引きによる犯罪件数が多い状況にあるとしている。</p> <p>取り組みとしては、防犯カメラ・防犯灯の設置だけでなく、小中学生に対する防犯教育が必要と思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、児童を対象とした防犯教室により、こどもから防犯意識を高めることは重要であるため、P67 安全・安心分野のすべきこと2の取組2に追記いたします。</p>
20	65 ページ ～ 68 ページ 安全・安心分野	<p>交通安全については、課題として、町内に主要道路が複数あり、人口当たりの事故発生件数が多い状況にあるとしている。</p> <p>取り組みとしては、交通事故を抑制する環境の整備に取り組むとあるが、具体性がない。町・学校・警察の協力により通学路の安全点検が行われており、この点検結果などをもとに歩道や信号機の設置、道路の改良を行い、歩行者や車が安全に通行できる環境の整備に取り組む必要があると思う。</p>	<p>ご指摘の通学路点検につきましては、P68 の安全・安心分野のすべきこと3の取組1に記載しておりますが、点検結果をもとにした道路整備につきましては、P54 の都市づくり分野のすべきこと3の取組2に記載しております。</p>
21	69 ページ ～ 74 ページ まちの運営分野	<p>まちづくり活動について、課題として、まちづくりや地域活動に対する町民の関心を高め、参加を促す必要があるとされています。</p> <p>取り組みとしては、まちづくり活動団体への様々な支援や仕組みづくりを行うとありますが、具体性がない。</p> <p>共創のまちづくりを目指す粕屋町においては、地域活動、まちづくり活動、福祉・教育のボランティア活動を含め、町民の関心を高め、参加を促すような仕組みづくりを町全体で考える必要があると思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、まちづくり活動への関心を高め、参加を促すことは重要であるため、今後策定する実施計画の中で検討させていただきます。なお、P72 まちの運営分野のすべきこと3の取組2に方向性を追記いたします。</p>